

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006 年度～2008 年度

課題番号：18330113

研究課題名（和文） 外国人児童・生徒の教育施策と自治体間格差の比較研究

研究課題名（英文） The educational policy of foreign children and the comparative research of the difference between regional policies

研究代表者

佐久間 孝正（SAKUMA KOUSEI）

立教大学・社会学部・教授

研究者番号：80004117

研究成果の概要：

日本では、外国人児童・生徒の教育が義務化されていない。そのため、受け入れに際し、必要とされる書類、親の滞在資格、さらに日本語教育の仕方、学年を下げて受け入れるか否か等において、教育委員会で差のあることが明らかになった。このような学校間の差は、かれらが帰国してからも、現地の学校で学ぶ姿勢にも影響している。また近年、滞在が長期化するにつれて、子どもは日本で生活することを望み、いずれは帰国しようと考えている親との間にギャップも生じ始めている。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	3,300,000	0	3,300,000
2007 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2008 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	9,400,000	1,830,000	11,230,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：国際社会・エスニシティ

キーワード：外国人労働者

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化対策として移民導入が検討されているが、安定した労働者受け入れには家族滞在が前提となる。家族が一緒ということは、子どもの教育が問題となる。子どもの受け入れに関して、研究開始当初は、あまり体系的な研究がなされていなかった。

2. 研究の目的

外国人の子どもの教育が義務化されていないため、自治体ごとに受け入れ施策にかなりの違いがみられる。そのため不平等な扱いがなされており、その実態もほとんど明らかにされていない。本研究の目的は、地方の教育

委員会レベルでどのような受け入れがなされており、どのような格差があるのか、また、その影響は帰国後にもどのような形で子どもの学習に影響を与えているのか、また受け入れの蓄積のある自治体の近年の様子や、海外の日系コミュニティの状況をも含めて調査研究することにある。子どもには、大学の留学生も含めて検討している。

3. 研究の方法

地方の自治体の受け入れ施策や教育委員会の方針に関しては、最初は、調査項目の郵送を外国人集住都市会議参加自治体を中心に、得られた結果のなかで重要と思われる

る諸自治体には後日直接訪問する形で聞き取り調査を行った。海外の日系南米人に関しては、ブラジル、ペルー、ボリビアを取り上げ、直接現地を訪問し調査を行った。留学生に関しては立教大学の留学センターを利用し、その他、オールドカマーの代表的として川の崎とニューカマーの代表的都市豊田に関しては、自治体や学校の協力により調査を行った。

4. 研究成果

本研究は、海外から労働者が受け入れられた時、その子どもの学校への受け入れ施策に関して、従来どようになされてきたのか、これから外国人の子どもが多くなる時、どのような受け入れがめざされるべきかを問うことにある。このような問題意識の下で、数回の研究会、現地調査の結果以下のようなことが明らかになった。①外国人の子どもの受け入れが自治体ごとに異なることを具体的に明らかにした。この場合地域格差には、日本のナショナル・マイノリティであるアイヌの教育状況も含めて明らかにした。②ニューカマーの問題を川崎市のオールドカマーの問題と関連付けて、外国人住民のメンバーシップの問題として独自の分析を試みた。③日系人の集住地区の一つである豊田市保見団地で行われている教育実践を明らかにした。④日系人が帰国した後もどのような学びが現地でも行われているか、ブラジル、ペルー、ボリビアも含めて明らかにした。特にボリビアの日系コミュニティに関しては、これまであまり研究蓄積がないので貴重な報告と思われる。⑤滞日日系人のなかでも親世代と子ども世代で、滞日意識に変化が生まれ始めていることを調査で明らかにした。現在は、世界同時不況で日系人にも帰国者が多いが、親と子どもで家庭が分解する危険もあることがわかった。⑥滞日外国人に留学生も含めて、かれらの日本社会での生活状況や大学への希望等も明らかにした。これは今後の留学生30万人計画に重要な貢献を果たすと思われる。以上の成果は平成21年3月発行の報告書として公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19件)

- ① 佐久間孝正 「国際労働力移動と教育—イギリスと日本の比較の視点から」、移民政策学会、2009年、71～83ページ、査読無。
- ② 佐久間孝正 「国際人口移動と教育—ニューカマーとの関連で」、特集「人口変動と教育改革」『教育社会学研究』第

82集、日本教育社会学会編、2008、125～140ページ、査読無。

- ③ 田房由起子 「難民家族の地位変容—ベトナム出身者の国際移動と家族成員の文化変容—」、『国際的な人の移動と文化変容』人の移動と文化変容研究センター編、ハーベスト社、2008年、p.99-119、査読無。
- ④ 二井紀美子 「ブラジル社会と民衆の教育—ポピュリズム時代を中心に—」『社会教育研究年報』第22号、名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室、2008年3月、51～68ページ、査読無。
- ⑤ エウニセ・イシカワ・アケミ 2008 “Identidade Étnica dos Nikkeis Brasileiros no Japão—O ambiente em que vivem as crianças brasileiras em Hamamatsu—” (「在日日系ブラジル人のエスニック・アイデンティティ—浜松における日系人子弟の生活環境」) (研究代表、池上重弘)『外国人市民と地域社会への参加—2006年浜松市外国人調査の詳細分析—』平成19年度静岡文化芸術大学文化政策学部長特別研究、成果報告書、pp.90-102。査読無。
- ⑥ エウニセ・イシカワ・アケミ 2008 「日本の記憶」と「ブラジルの記憶」—日系ブラジル人のアイデンティティ『クアドランテ「四分儀」地域・文化・位置のための総合雑誌』N.10、東京外国語大学海外事情研究所、(2008年3月)、pp.177-186。査読無。
- ⑦ エウニセ・イシカワ・アケミ 2008 「日本における日系ブラジル人女性—国際移動に伴う変容」『アジア遊学』117、勉強出版、pp.47-53、2008年12月20日発行、査読無。
- ⑧ 実松克義 ボリビア・アマゾン先住民族文化における環境思想と自然との共生の実践—モホ族とシリオノ族を中心として—「国際行動学研究」第3巻12-23pp. 2008年3月、査読無。
- ⑨ 佐久間孝正 「変貌する外国人多住地域と学校—安定した家族滞在に求められるもの」『生活経済政策』NO.122、3月、生活経済政策研究所、2007年2月、8～12ページ。査読無。
- ⑩ 佐久間孝正 「変わる外国人多住都市と求められる子どもの受け入れ施策」『国際人流』NO.242、法務省入国管理局、2007年7月、21～25ページ。査読無。
- ⑪ 佐久間孝正 「多文化共生コミュニティとは何か」『平和とコミュニティ』平和・コミュニティ叢書2、宮島喬・五十嵐暁郎編、明石書店、2007年9月、189～215ページ、査読無。

- ⑫ 佐久間孝正「イギリスの南アジアのコミュニティ—女性の運動組織に注目して」『移動するアジア』平和・コミュニティ叢書3、佐久間孝正・林倬史・郭洋春編、明石書店、2007年10月、220～245ページ、査読無。
- ⑬ 二井紀美子「内発的発展論に関する一考察—鶴見和子とジョン・フリードマンの論を中心に—」『社会教育研究年報』第21号、名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室、2007年3月、29～41ページ、査読無。
- ⑭ イシカワ・エウニセ・アケミ①2007年3月「進学を果たした日系ブラジル人の若者の学校経験」科研費（平成16年～18年度）科学研究費補助金（基盤研究B（1）課題番号16330109）研究代表者：宮島喬『外国人児童・生徒の就学問題の家族的背景と就学支援ネットワークの研究』pp. 75-87. 総頁157、査読無。
- ⑮ 山脇千賀子「外国籍児童・生徒をめぐるネットワーク形成の可能性—神奈川県藤沢市を中心に—」『外国人児童・生徒の就学問題の家族的背景と就学支援ネットワークの研究』科学研究費基盤研究B(1)研究成果報告書、代表宮島喬、2007年3月：pp. 117-126. 査読無。
- ⑯ 実松克義②アンデス・シャーマニズムとその世界観 「立教大学ラテンアメリカ研究所報」 No. 35 pp. 1-16 2007年3月、査読無。
- ⑰ 佐久間孝正「マイノリティと社会的排除—イギリスとの関連で」『社会教育学会紀要』42号、日本社会教育学会、2006年6月、118～119ページ、査読無。
- ⑱ 田房由起子 Yukiko TABUSA and Mioko Tsuboya, 2006, “Factors Responsible for *Fushugaku* among Foreign National Children: An Analysis of the Attendance / ‘Non-Attendance’ Process in Municipalities with Many Foreign Residents”, 横浜市立大学論叢, 第56巻第2号, pp. 229-247. 査読無。
- ⑲ 実松克義アマゾンのシャーマン—人類学のフィールドノートより 「立教大学ラテンアメリカ研究所報」 No. 34 pp. 87-95 2006年3月、査読無。
- [学会発表] (計 21件)
- ① 佐久間孝正、「外国人政策の改革における地方自治体の役割と課題—外国人集住都市会議参加自治体の受け入れ施策との関連で」移民政策学会研究大会シンポジウム、名城大学、2008年12月13日
- ② 河野康成 (2008). 留学生と日本人学生の比較調査. 日本行動計量学会第36回大会（発表論文抄録集、99-100.）
- ③ 二井紀美子「ブラジルの民衆教育分野における大学と地域住民の連携—ブラジル大学の事例より—」日本比較教育学会第44回大会、東北大学、2008年6月
- ④ イシカワ・エウニセ・アケミ “Japanese-Brazilian Children’s Education and Their Identity: A Case Study in Hamamatsu City” 日系ブラジル人の子どもの教育とアイデンティティ—浜松市の事例、The 20th Asian Studies Conference Japan (ASCJ), Rikkyo University, Tokyo, Japan, June 21-22. 2008年6月
- ⑤ イシカワ・エウニセ・アケミ “The Japanese-Brazilian Children’s Education in Japan” 日本におけるブラジル人の子どもの教育、38th World Congress of the International Institute of Sociology, Central European University, Budapest, Hungary. June 26-30, 2008. 第38回 (IIS) 国際社会学機構大会, 2008年6月26日～30日。
- ⑥ イシカワ・エウニセ・アケミ “The Japanese Brazilian Identity”、日系ブラジル人のアイデンティティ、2008年6月38th World Congress of the International Institute of Sociology, Central European University, Budapest, Hungary. June 26-30, 2008. 第38回 (IIS) 国際社会学機構大会, 2008年6月26日～30日
- ⑦ イシカワ・エウニセ・アケミ “Japanese-Brazilians in Japan: The Second Generation’s Identity” (在日日系ブラジル人：第二世代のアイデンティティ) First ISA Forum of Sociology, University of Barcelona, Spain, September 5-8, 2008、第1回社会学フォーラム (ISA) 2008年9月27日
- ⑧ 山脇千賀子「移民と政治意識—ペルーの事例を中心に—」、日本ラテンアメリカ学会第29回定期大会@筑波大学 2008年6月7日
- ⑨ 佐久間孝正「国際労働力移動と教育」移民政策学会プレ研究会、立教大学、2007年12月23日
- ⑩ 河野康成 (2007). テキスト情報に関する分析アルゴリズムの比較考察. 第28回ファジィワークショップ(講演論文集, 53-54.)
- ⑪ 河野康成 (2007). 自由記述法と選択技法の比較考察. 日本行動計量学会第35回大会(発表論文抄録集, 193-194.)
- ⑫ 竹内光悦・河野康成 (2007). 質的情報分析による学生支援の検討. 日本行動計量学会第35回大会(発表論文抄録集, 309-310.)

- ⑬ イシカワ・エウニセ・アケミ 「在日日系人ブラジル人女性」日本移民学会第17回年次大会（大阪商業大学）平成19年6月23日
- ⑭ 山脇千賀子 「エスニック学校は日本の国際教育の新しい可能性か」、日本国際教育学会第18回大会@台北教育大学（台湾）2007年11月24日
- ⑮ 実松克義 ボリビア・アマゾンの古代文明の特徴と他文明との比較について。比較文明学会第25回大会一般研究発表2007年11月11日
- ⑯ 実松克義 ボリビア・アマゾン先住民族文化における環境思想と自然との共生の実践。国際行動学会第四回大会研究発表2007年10月14日
- ⑰ 河野康成・小木しのぶ (2006a). 多言語を含む自由回答のテキスト分析。日本計算機統計学会第20回大会（論文集, 191-194.）
- ⑱ 河野康成・小木しのぶ (2006b). 大学に対する満足度調査の質的・量的分析。日本行動計量学会第34回大会（発表論文抄録集, 82-83.）
- ⑲ イシカワ・エウニセ・アケミ
“Cultural and Language Barriers inside the Families - The case of Japanese-Brazilian Families in Japan”（「在日日系ブラジル人家族内における言語・文化の壁」）XVI ISA World Congress of Sociology（第16回国際社会学会（ISA）大会）July 23rd to 29th, 2006, in Durban, South Africa. 2006年7月
- ⑳ 山脇千賀子 第5回日本国際文化学会、「移民国家化する日本の教育課題」、東北大学2006年7月16日
- ㉑ 山脇千賀子 ボリビア・アマゾンの古代文明について、比較文明学会第78回研究例会 2006年5月27日

〔図書〕（計 7件）

- ① イシカワ・エウニセ・アケミ、「日本の記憶」と「ブラジルの記憶」—日系ブラジル人のアイデンティティ」編者：鶴本花織・西山哲郎・松宮朝『トヨティズムを生きる』せりか書房、2008年9月、p73-82
- ② 山脇千賀子 “What does “citizenship” mean for Peruvians in 21st century? - Analysis on lifestyle, trust and network”, in Izuoka, Naoya, Kozaki, Tomomi, and Honya, Yuko(eds.) *Civic Identities in Latin America ?*. Keio University Press. 慶応義塾大学出版会、2008年1月31日、pp.145-163
- ③ 二井紀美子 「総合制国際中等学校の外国人生徒—在日ブラジル人教育をめぐる日本の動き—」西村俊一・浅沼茂編著『総

合制国際中等学校」の構想—その設立可能性に関する研究—』全国共同利用施設東京学芸大学国際教育センター、2007年3月、113~127ページ

- ④ 佐久間孝正 『移民大国イギリスの実験—学校と地域にみる多文化の現実』勁草書房、2007年12月、334ページ。
- ⑤ 佐久間孝正 『外国人の子どもの不就学—異文化に開かれた教育とは』、勁草書房、2006年9月、283ページ
- ⑥ イシカワ・エウニセ・アケミ 「家族は子供の教育にどうかかわるか」編著：広田照幸『子育て・しつけ』日本図書センター、2006年、pp. 290-303、総頁374
- ⑦ 実松克義 「The Project Mojos 2005 Report : An Investigation of the Ancient Culture of the Llanos de Mojos of Bolivia. Katsuyoshi Sanematsu (ed.)」Project Mojos: Japan—Bolivia、2006年7月、p 191

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐久間 孝正 (SAKUMA KOUSEI)
立教大学・社会学部・教授
研究者番号：80004117

(2) 研究分担者

実松 克義 (SANEMATSU KATSUYOSHI)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：40226030
山脇 千賀子 (YAMAWAKI CHIKAKO)
文教大学・国際学部・准教授
研究者番号：40302343
イシカワ・エウニセ・アケミ (ISHIKAWA EUNICE AKEMI)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授
研究者番号：60331170

(3) 連携研究者

なし

研究協力者

田房 由起子 (Tabusa yukiko)
立教大学社会福祉研究所・研究員
河野康成 (Kono Yasunari)
立教大学リーダーシップ研究所・所員
二井 紀美子 (Nii kimiko)
中京大学・現代社会学部・非常勤講師
名古屋大学大学院教育発達科学研究科付
属生涯学習・キャリア教育研究センター・研究員
鈴木 美奈子 (Suzuki Minako)
立教大学大学院社会学研究科社会学専攻・後期博士課程